日本バレーボール学会　第21回大会報告

日本バレーボール学会第21回大会が，3月19日および20日の2日間にわたって明治学院大学の白金キャンパスで開催されました．参加者数はおよそ250名で，オンコートレクチャーでモデルチームとしてご協力頂いた小学生，中学生，高校生および大学生を含めると300名近い方々がご参加くださり，盛況裏に終えることができました．特に，今回の学会大会では，参加者の方々がとても積極的であり，各企画において建設的な意見交換，討論ができたことを大変嬉しく思っています．当学会大会実行委員長として，厚く御礼申し上げます．

【特別講演】

2016年はオリンピックイヤーであり，2020年にはオリンピック．パラリンピックが東京で開催されます．このような状況において，古代ギリシャのオリンピアの祭典に起源をなし，クーベルタン男爵の努力によって実現した現代オリンピックの開催意義について考えることは重要なことと思います．そこで，東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会COEの水野正人先生をお迎えし，『2020東京オリンピックとレガシー』と題して，ご講演を頂きました．水野先生のご講演は，関西弁（かな？）を交えながら，また教壇に留まらず，会場を歩きまわりながら，とてもフレンドリーな雰囲気でのご講演でした．色々と興味深いお話もありましたが，主な内容は以下のようなことでした．オリンピック・パラリンピック開催の理念は2つあり，1つ目は素晴らしい大会にする，つまり夢・感動・希望．力強さ実感できて世界の模範となる大会を開催すること．2つ目は，2020以降にいかに健全な社会をオリンピックのレガシーとして遺すことができるか，とのことです．東京オリンピック・パラリンピック以降に経済，文化，教育，環境など多くの観点からみて健全な都市，国，社会，を構築することがオリンピック開催の真の目的であると，私は解釈しました．また，レガシーには有形のものもあれば，無形のものもあり，このことについて詳細なお話を頂きました．東京オリンピックに起因する有形のレガシーはさておき，無形のレガシーである文化，教育，交際交流およびボランティアリズム等を若い人々に遺すことは我々のミッションであると改めて認識させられました．そのために，我々はこれから何をできるのか，日本バレーボール学会は何ができるのか，今後検討すべき事柄だなと考えさせられた次第です．

水野先生，大変貴重なご講演，ありがとうございました．

【シンポジウム】

近年のバレーボール競技における攻撃は著しく変化し，相手ブロッキングに対して数的有利性を意図したシンクロ攻撃にみられるようなより複雑な攻撃へと進化しています．そ

こで，攻撃を組み立てるコントロールタワーであるセッターに着目し，『セッター必要なスキルと戦術』と題してシンポジウムを開催しました．講師として，東京杉一クラブ監督である宇賀田眞一先生，駿台学園中学校の男子バレーボール部監督である海川博文先生，オリンピアンで大村工業高校のバレーボール部コーチである朝長孝介先生，オリンピアンで久光製薬スプリングス監督の中田久美先生をお迎えし，ご講演と活発なディスカッションを行いました．宇賀田先生には，小学生バレーボールチームの実態，小学生をバレーボーラーにするために考えるべき身体的，技術的事柄，練習計画とその実施における注意事項等についてお話し頂きました．海川先生には，中学校バレーボールの特徴，中学校バレーボールにおけるセッターの重要性と求められる能力と技術等についてお話しいただきました．大学生のみを指導している私にとって，小学校から中学校へあがると急に30cmもネットの高さが上るという事実を再認識し，検討する必要はないのかなとふと考えました．朝長先生には，高校・トップレベルの選手を対象に，セッターに必要な人間性，スキル，相手ブロッカーに対する攻撃組立の理論等についてお話し頂きました．小学生，中学生の年代には難しいかもしれないが，高校生以上では『ボールを飛ばす力』,『ボールをコントロールする力』等の『パスの力』が基本的に重要であり，目指す目標は，ボールを出したい場所に，出したいタイミングで常にボールをセットすることであると言う．また，攻撃を組み立てる場合は，相手チームのブロックシステムを常に考慮しつつ，自チームのミドルおよびサイドプレーヤーの攻撃を組み合わせ，練習試合等で試行錯誤を繰り返し，有効な攻撃パターンか否かを取捨選択していくとの話で，非常に興味深い内容でした．中田先生には，トップレベルの選手を対象として，お話を頂きました．直前に中田先生が率いる久光製薬スプリングスはVプレミアリーグリーグで優勝したばかりであり，参加者も非常に興味深く聞きいっていました．相手ブロッカーに対する攻撃組立の理論について，Vプレミアリーグでの試合におけるスライドを用いて，相手チームのブロックシステムを考慮した攻撃の組み立てについて熱心に理論を展開して下さいました．

シンポジスト間でのディスカッションに引き続いてフロアーからのディスカッションも活発で，これまでになくインタラクティブで建設的なシンポジウムであったと感じました．

【一般研究発表】

本学会大会では，29の演題が発表され，会場では演者と参加者間での活発なディスカッションがいたるところで見受けられました．学会としての体裁が整い，バレーボールを科学的に研究するという本学会の目的の一つが具現化され，大変うれしく感じました．また，今回の学会大会では，初めて『一般研

究優秀賞』を設けました．その目的は，優秀な研究を発表した方に『一般研究優秀賞』を授与することにより，日本バレーボール学会大会での発表を奨励することです．当初は本学会大会の総会時に『一般研究優秀賞』の表彰を考えておりましたが，演題数が多く，時間的に十分な選考ができないとの理由で，近日中に，日本バレーボール学会ホームページで公表・表彰することにしました．

【フォーラム】

『バレーボールにおけるセットについて』というテーマで，吉田清司先生（専修大学）には，バレーボールにおけるセットの技術の変遷について，縄田先生（愛知教育大学）にはセットのバイオメカニクスについてお話を頂きました．橋本先生と板倉先生にはセットのみに関わらずより広く『バレーボールにおけるスポーツ外傷・障害とその対応・予防について』お話しいただく予定でしたが，セットについてのディスカッションが活発に繰り広げられたため，ディスカッションのみへの参加となってしまいました．しかし，医学的な観点から質疑に対して応答していただき有意義なフォーラムができたと思っております．

【オンコートレクチャー】

　このセッションのテーマは『セッターのコーチング（スキルと戦術)』であり，4 名の講師によるオンコートでのレクチャーをお願い致しました．宇賀田先生，海川先生，朝長先生は前日のシンポジウムでもご登壇頂いており，この 3 名に北沢　浩先生（元富士通川崎レッドスピリッツ，明治学院大学バレーボール部コーチ）を加えて，実技・コーチングを伴いながらのレクチャーと比較的長い時間をかけてのディスカッションを行いました．宇賀田先生にはオーバーハンドパスからセッターのトスへ導くための技術および指導上の留意点についてお話しいただき，併せて効果的な練習方法についてもご紹介いただきました．オンコートレクチャーでは，東京杉一クラブの小学生がモデルチームとして実技を担当してくれました．小学生とは思えない素晴らしいセット，スパイクに大勢の参加者が驚きました．海川先生には，中学生における段階的指導法についてお話しいただきました．構えの姿勢，パスの弾道の予測，ハンドリングの指導，フットワーク，トスアップおよびジャンプトスの指導，周辺視野の重要性，さらにはそれらの効果的な練習方法について実技と講義を交えてとても分かりやすく説明して

頂きました．ここでも，中学生のレベルの高さに感心しましたの．北沢先生には，大学からトップレベルのセッターを対象として，フットワーク，トスを上げる際のボールをとらえる位置，トスのテンポ，相手ブロッカーに対する攻撃組立の理論について講義と実技を含めてお話し頂きました．朝長先生には，セッターに必要な身体の使い方，フットワークとハンドリング，セッターの練習方法・指導法についてお話し頂きました．小・中学生と違って，高校生の段階ではボールをはじくようなパスを指導するということ，パス練習においてボールから目を切る（例えば，ブロッカーを見る）動作を入れる練習を取り入れるということには同感で，大変興味深い内容でした．

休憩後の質疑応答では，まず 210 インチのスクリーンに，Ｖプレミアリーグの試合におけるあるローテーションの自チームの攻撃とマッチアップした相手のチームのブロッキングとを投影し，講師の先生方および参加者の方々にじっくりと観て頂き，どういう理由でどういう攻撃の組み立てを用いるかについて活発な議論が行われました．有効な攻撃を組みためるには，自チームの攻撃の特性をよく認識し，相手ブロッカーの特徴を十分に把握することが，セッターにとって最低限必要な情報であり，そこからどう考えてどう組み立てるかがセッターの難しいところであり，また面白いところでもある，との意見が講師の先生方の意見だったと記憶しています．セッターとは奥の深いポジションであると改めて考えさせられたオンコートレクチャーでした．

最後に，フォーラム，シンポジウム，オンコートレクチャーの司会を引き受けてくれた吉田清司先生と布村忠弘先生（富山大学）に感謝申し上げます．また，この大会の運営に当たり積極的にサポートしてくれた明治学院大学健康・スポーツ科学研究室の齋藤里美先生，濱野早紀先生および土屋陽祐先生，そして，明治学院大学バレーボール部員にも心より感謝申し上げます．

文責　日本バレーボール学会 第 21 回大会
実 行 委 員 長： 黒 川　　貞 生